



トク化

2025年度 経営方針

代表取締役社長 森崎 英五朗

2023度「大変化」、2024年度は「シン・大変化」というキーワードのもと、国が進める「働き方改革」「生産性革命」「DX(デジタル変革)」を実現すべく意識づけと環境整備を展開し、2024年度にスタートした労働時間の罰則付き上限規制への対応も全体的に成果を上げている。

その反面、東日本大震災以降需要が安定していた当社事業は、発注量の減少により価格競争が激しくなるなど、受注・採算面ともに厳しい状況を迎えつつあり、大きな「転換期」を迎えたといえる。

2月28日の死亡災害をはじめ現場において多数の重大災害が発生し、先代社長が「リメンバー(忘れない)1995」と称した年から、今年でちょうど30年になる。

対外的に認められるほど安全管理を強化し、営業的にはトンネル補修事業への参入やトンネル工事の元請受注を実現、14年前の東日本大震災を機に経営的にも成果を上げた30年であった。

そのタイミングでの迎えたこの「転換期」は、当社にとって次なる30年へのスタートの年と位置付けたい。

30年後の日本は、人口は1億人を下回り約4割が65歳以上の「超超高齢化社会」となり、現在問題視されているインフラの老朽化もより深刻化し、南海トラフ地震の発生確率も80%と予想されている。

そうした時代を迎えるにあたり、当社の技術やノウハウの社会的役割は非常に大きいと認識し、将来を見据えた「持続可能な会社運営」を目指す。そのため、時代の流れに対応しつつも、貫くべき当社のあるべき姿を幹部・社員全員が共有し、未来に前進すべきと考える。

来年設立60年を迎える当社は、トンネルという特殊技術を中心に、採算以上に「信頼」関係を重要視し、独自の手法・取り組みを継続したことで今日を迎えたと言えるのではなかろうか。

いわば「特化(とっか)」することにこだわって成長してきたのである。

次の30年に向け、これらを発展させた、以下4つの「トク化」をこれからの行動の指針として追及、展開していく。

特化【寿ブランド】 特殊技術、独自の取り組み(現場・安全・広報)へのこだわりを追求

得化【喜ばせる技術】 顧客に総合的に「寿建設を選んでよかった」と思わせる「お得感」の追求

篤化【三方良し】 真心をこめ誠意あふれる、「ありがとう」と言っていただけの仕事追求

徳化【寿モラル】 「選ばれる企業」を目指し、一人ひとりがすぐれた品性・人徳形成を追求

寿建設の新たな30年を、4つの「トク化」を掲げスタートする。

そしてその成果として、「寿建設株式会社」が存続したまま30年を通過し、2066年に「100年企業」を目指す。